



職業奉仕を学ぶ

2021－2022
職業奉仕委員会

小畑 彰

ロータリーの誕生

ロータリーは1905年、
ポール・ハリス(弁護士)、
ハイラムE・ショーレー(洋服屋)、
シルベスター・シール(石炭商)、
ガスターバス・ローア(鉱山技師)の
4名の会員で誕生した。



当初の目的は「この殺伐とした大都会
で、どんなことも話し合え、語り合える友人を作ろう」であり、
親睦と会員の職業上の利益増大を目的とした、相互扶助、互恵主義だった。



奉仕思想の誕生

しかしロータリアンだけが儲かっていいのかとロータリーは次第に内外から批判を受ける。そんな中、ロータリーに奉仕概念を導入するきっかけとなったのが1906年の**ドナルド・カーター**の入会で、入会を勧めたところ

「そんな単なる互惠主義は、クラブ内の利益交換にしかすぎず、社会的な意義を欠いている。そんな利己的なことに終始するクラブには、将来性も入会の意義もない」と断った。

ポール・ハリスは反省、クラブの定款を改正、

「シカゴ市の利益を推進し、市民の中に市に対する誇りと忠誠の精神を普及すること」という条項を加え、カーターは入会した。

以来**ハリス**は「クラブの親睦で培ったエネルギーを、挙げて世のため人のために貢献しよう」と提唱。

ロータリーは相互扶助と親睦を目的とした時代から大きく方向転換し、奉仕の概念が導入されることになる。



奉仕思想の誕生

その後、1910年全米ロータリークラブ連合年次大会で

B.フランク・コリンズが

「Service above self」「超我の奉仕」を発表

（最初は「Service not self」「無私の奉仕」）

またアーサー・F・シェルドンが

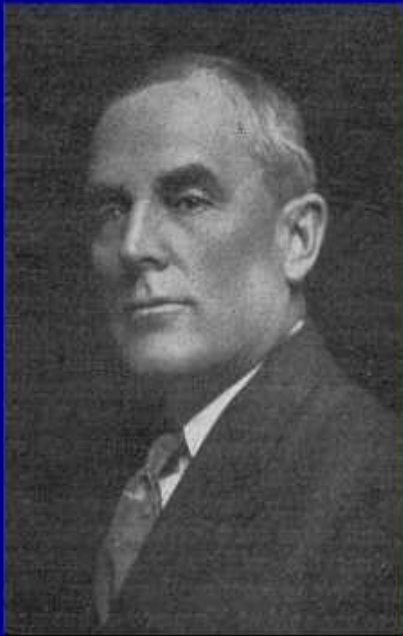
「He profits most who serves best」「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」を発表

（最初は his fellows が入っていて「仲間に最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」）

ここにロータリーの職業奉仕思想が誕生。

しかし職業奉仕という言葉が使われ出したのは、1927年、国際大会から。それまで一般奉仕概念と呼ばれていたものに職業奉仕という名称が与えられた。

Service above self



B. Frank Collins

1911にミネアポリスRC会長のコリンズが Sevice Not self (無私の奉仕) を提唱、self即ち自分を、Not即ち否定して、犠牲にするのがロータリーの奉仕と説いた。→
宗教的すぎて、自分を犠牲にするのは行き過ぎとしてselfを温存しselfの上に、即ちabove selfで奉仕を考えようと
1920頃に Service above self に修正された。

He profits most who serves best



Arthur F. Sheldon

1910全米ロータリー大会で
He profits most who serves his fellow bestを提唱。
その後his fellowをとり、自分たちの仲間内や関係者に限定して適用される原則から広く一般に通用する原則に修正された。
「最も多く奉仕する者には、最も多くの利益がある」
「奉仕に徹する者には、最大の利益がある」



職業奉仕の歴史

その後

- ・ロータリーの綱領(ロータリーの目的)1912
- ・ロータリー倫理訓(道德律)1915
- ・決議23-34 1923
- ・四大奉仕の分割 1927
- ・四つのテスト 1932
- ・大連宣言 1936

などロータリーの奉仕理念、基本哲学が出てきたが、

1987年の「**職業奉仕に関する声明**」が出たことが**職業奉仕の大きな転換点**となった。

1・クラブ自体も職業奉仕をする。

2・職業人が自己の職業上の知識や技術を活かした社会奉仕は職業奉仕である。



職業奉仕の歴史

「職業奉仕に関する声明」以降、

ロータリアンの職業宣言(1989)、ロータリアンの行動規範(2011)などにはいずれも

「職業を活かした社会奉仕は、職業奉仕である」という考えが入ってくる。

2016年の標準ロータリークラブ定款にもこの考えが明記。

世界社会奉仕を強く推進するために障害になっていると考える国際ロータリー(RI)が、職業奉仕を徐々に減衰させるために「最もよく奉仕する者、最も多く報われる」の標語を第二標語に格下げしたり、職業奉仕の匂いのするものを消し去って世界最大のボランティア団体に邁進しているのが現状……

会員増強、財団寄付など、お金とマンパワーをもって人道的慈善奉仕団体を目指しているとされるが、理念もお手軽なカジュアル化に向うロータリー界で、職業奉仕こそロータリーの根幹であるとする「日本の職業奉仕」こそ、ロータリー世界の宝である。

職業奉仕の定義



2019 標準ロータリークラブ定款 (Standard Rotary Club Constitution)

第6条 五大奉仕部門 (Five Avenues of Service)

2. 奉仕の第二部門である職業奉仕は、事業および専門職務の道徳的水準を高め、品位ある理念を実践していくという目的を持つものである。会員の役割には、ロータリーの理念に従って自分自身を律し、事業を行うこと、そして自己の職業上の手腕を社会の問題やニーズに役立てるために、クラブが開発したプロジェクトに応えることが含まれる。

- クラブ自体も職業奉仕をすること
- 職業人が自己の職業上の知識や技術を活かして社会に奉仕すればそれは職業奉仕である
- 職業人としての社会奉仕も職業奉仕である
- を意味する。



ロータリーの樹



「根」=『クラブ奉仕』

「幹」=『職業奉仕』

「枝・葉」=『社会奉仕』

『国際奉仕』

『青少年奉仕』

「花」=『ロータリー財団』



職業奉仕とは？

- ・有償の奉仕、人のために自分の仕事をしながらお金をもらうこと
- ・世のため、人のために奉仕する心をもって職業を営むこと
- ・自己(会社)は考えず、他人に対してただひたすらに尽くすこと
- ・高潔で高い倫理性をもって仕事をし、職業を通じて顧客や地域に貢献すること などと表現。

辞書には載ってないロータリー独自の言葉であり

職業・・・生きていくための所得を得るための手段であり、自分のためのもの

奉仕・・・世のため人のためのもの、即ち自分以外の人のためのもの

エネルギーの方向が全く正反対の二つの言葉を一つに合体させて「**職業奉仕**」という言葉になっているのでわかりづらい。

しかしロータリーでは職業を営む心、即ちお金を儲ける心と、世のため、人のために奉仕する心が同じ一つの心と考え、「一つの心、世のため人のために奉仕する心をもって倫理的に職業を営みなさい」と言っている。

職業奉仕は個人が実践するものであり、クラブはその集合体でクラブとしての職業奉仕の実践機能はない。

ただ奉仕の実践は個人で行うのが原則だが、ロータリーの奉仕活動は団体で奉仕活動をすることによって個々のクラブ会員に、奉仕活動はこういうことをするのですよ、こういう気持ちを持ってやるのですよという風にサンプルとして団体での例をクラブで示している。



職業奉仕の本質

職業奉仕はロータリーの精神、哲学そのものであり、その理解には

「ロータリー運動は倫理運動である」…の理解が必要。

「倫理」…「人とし、人間としての、正しく歩む道」

人を騙すような、泣かすような行為、非人道的、非社会的行為をしてはならない。

世のため、人のために尽くしなさいという教えが「倫理」であり、その倫理をもって職業を営むのが「職業奉仕」である。

職業奉仕は職業人の経営哲学であり、ロータリーで職業奉仕を学べば、経営学を学んだのと一緒に、その中心思想となるのが「奉仕の理念」である。

奉仕の実践に当たり、遵守すべきこと

- ・取引関係「誇大広告禁止の原則」「同業者誹謗禁止の原則」「適正価格遵守の原則」
「アフターサービスの原則」
- ・同業関係「同業共存共栄の倫理」「アイデアの交換」「ノウハウの公開」
- ・下請関係「利益の適正分配の原則」「賄賂禁止の原則」など

Service≡奉仕



シェルドンが20世紀初頭の悪徳が横行していた時代に、成功している会社の秘密を探求した結果「**他人の立場を考えて、その人の為になるように尽くすこと**」と気づき「**サーヴィス**」と名付けた。

「**Service**」 ロータリーでは最も広い意味で使われ

「**世のため、人のために尽くすこと**」「**相手のことを思い、相手のためになる行為**」であり

「ロータリーは**Service(奉仕)**という文字を、その一番広い意味で使っており、単に事業あるいは専門職における取引行為や販売された商品を指すのみではなく、**相手のニーズや境遇に対して正当な考慮を払い、他人に対していつも思いやりの心を持つこと**も指している」

Serviceをするために必要な要素

「正しい質」 「高い品質、適正な価格」

「正しい量」 「豊富な品揃え」

「正しい行動様式」 「経営者、従業員の適切な接客態度」「公正な広告」

「豊富な商品知識、高度な専門知識」「十分なアフターサービス」

この「サーヴィス」を自らの職業で発揮するのが「職業奉仕」

奉仕の理念

奉仕の理念 「The ideal of service」



「ロータリーが理想としているサーヴィス」の意味で、次の4つの言葉で言い表される。

1. Service Above Self 「超我の奉仕」 第一モットー

「サーヴィス第一、自己第二」

2. He Profits Most Who Serves Best

「最もよく奉仕する者、最も多く報われる」 第二モットー

3. 「他人への思いやり」

4. 「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい」

職業奉仕はシェルドンによって提唱された「He Profits Most Who Serves Best」というロータリーの第二モットーによって行われる。

即ち、自分が金銭を儲けたいと思うなら、まず他人に奉仕することであり、先に奉仕 (Service) があれば必ず報酬 (Profit) が得られる、と言うことを説いている。

ServiceとProfitは原因と結果の関係にあり、Serviceが先でProfitはその結果である。



ロータリーの職業への考え方

Business 実業家

利潤追求を第一義とする

Profession 専門職業人

宗教家、医師、弁護士、教育者等は人々を救済することを第一義とし、お金を儲けることを目的にしていない、見返りがなくても人々を助けるのが専門職業人

職業奉仕はこのProfessionの世界の考えをもって、Businessの世界をコントロールしていこうとする考え方で、これにより、実業家に信用が生まれ、安定した経営ができる

職業奉仕の根本原理

ロータリーは職業を営む心も、奉仕の心も同じ一つの心だと考えるべきで、別々に考えるのではない。即ち世のため、人のために奉仕する心をもって職業を営む。

職業奉仕はProfessionの世界(世のため、人のために尽くす心)の考え方を
もってBusinessの世界(金を儲ける心)をコントロールしていこうという考え方
ある。・・・職業奉仕の根本原理。

世のため、人のための心をもって、職業を営んでいると、その結果として信用
という保護膜に包まれて、長期的に安定した利潤を着々と獲得することができる
強靱な体質の企業を作り上げることになる。

ロータリーの職業奉仕論はいかにしてお金を儲けるかという「商売の極意論」



1930年2月14日生まれ。52年関西学院大学法学部卒。弁護士。(学)大阪学業理事長。(社福)伊丹社会事業協会理事長。公職・顧問委員、司法委員、鑑定委員、人権擁護委員、伊丹市公平委員など多数。ロータリー歴：73年伊丹RC入会。1990-91年度第2680地区ガバナー。地区大会RI会長代理。パネリスト、講師など。MPY-F、R財団ベネフアクター。メモリアル・コントリビューター。米山功男



「入って学び、出でて奉仕せよ」

なぜロータリーは月何回も例会を開くのか・・・

ロータリーでは

「倫理を学び、人格を向上させ、それをもって初めて職業社会、社会的弱者に対して奉仕ができる。」と考える。

ロータリーの第一義・・・ロータリアンの心の開発・・・人作り。

その倫理を学ぶのが「例会」。

異業種の職業人の中から選ばれた会員が例会に出席し、師となり徒となって学び合い、自らの心を磨き合う、そしてロータリーの親睦を深め、その心を個人生活、職業社会、地域社会で実践する。寄付団体なら月何回も例会を開く必要はないが、ロータリーでは例会場に毎回通い、自分自身を高めていくことが重要。

職業奉仕の実践は例会の出席から始まり、ロータリーの親睦を深め、例会で高められた奉仕の心を持って、「最もよく奉仕する者、最も多く報われる」という理念をもって行う。

例会の重要性

ある片田舎で、老婆がザルの中に羊の毛を入れて、小川の流に浸して洗っていました。そこに神父さんが通りかかり

「お婆さん、貴方は、毎週教会に来て私の話を聞いているから、かなり物知りになったでしょうね」

「いや、神父さん、聞いてもすぐ忘れてしまい、何も覚えていません」

「ほう、それは困った」

「でも、私はそれでいいと思いますよ。神父さん、ザルの中を見てください。ザルの中には、ドンドン水が入っていきませんが、すぐザルの外に流れていきます。しかし、ザルの中の羊の毛はこんなに綺麗になってるでしょう。」

私も神父さんの話を聞いては忘れ、聞いては忘れませんが、それで私の心も少しは綺麗になっていくと思いますよ」

ロータリーでも聞いては忘れながら、羊の毛のように、自分自身が磨かれていくことを意味している。そして何回も忘れながら次第に自分自身が磨かれ、ロータリーが身につく。

まずロータリアン自身の心を磨き、倫理を高めなければ世の中に倫理を提唱することができない。そのため毎回例会に出席することが重要で、毎回例会に出て、卓話を聞き、良質な人達との接触を通じていろいろなことを教わる。それはすぐ忘れるかもしれない。しかしその体験を積み重ねていくことが重要。



ロータリーの親睦



親睦 = ロータリアン個人個人の心が結合した状態

親睦活動 = お酒を飲んだりゴルフをしたりして楽しむ

会員が例会に集まって、友情を深め、自己研鑽を重ね、奉仕の心が育まれる。このロータリアン同士の真の友情に裏打ちされたものを「親睦」という。

「fellowship」「親睦」

「志が同じ者同士の仲間意識、仲間同士の親交、連帯意識、友情」

・お互いによく知り合い、尊敬しあい、相手の身になって考える

例会でロータリーの親睦が育まれ、高められた奉仕の心を持って、それぞれの家庭、職場、地域社会に帰り、自己の職業を倫理的に営み、奉仕を実践する。

奉仕の実践活動をする以前に、奉仕の心を学ばなければならない。

例会で奉仕の心を学び、例会場から出て自己の職業を倫理的に営み、奉仕を実践する。

「入って学び、出でて奉仕せよ」

最後に



ロータリーの奉仕、職業奉仕はロータリーの哲学であり、その中心思想である「**奉仕の理念**」というものを自分の生活で実践しなさいと言っている。

生活の全て、家庭でも、職場でも、地域でも、どこでもロータリーの心、ロータリーの理想、思いやりの心、それを実践しなさい。と言っている。

職業奉仕は個人で行うものであり、「奉仕の理念」である「**最もよく奉仕する者、最も多く報われる**」という理念をもって、世のため人のために尽くすよう**善意**(人間同士の思いやりの心)をもって職業を営むこと。

例会に出席し、会員同士ロータリーの親睦を深め、奉仕の心を育み、その心をもって倫理的に自己の職業を営む……職業奉仕の実践。